

105-108

問題文

日本薬局方に収載された生薬Aの確認には、成分Bの検出を目的として、Cに示す試薬や方法を用いた試験が行われる。A～Cの組合せのうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

	A	B	C
1	オウゴン	インドールアルカロイド	薄層クロマトグラフィー、紫外線照射
2	キキョウ	トリテルペンサポニン	無水酢酸と硫酸
3	ゴシュユ	ステロイドサポニン	4-ジメチルアミノベンズアルデヒド試液
4	チンピ	フラボノイド	バニリン・塩酸試液
5	ベラドンナコン	トロパンアルカロイド	薄層クロマトグラフィー、ドラーゲンドルフ試液

解答

2, 5

解説

選択肢 1 ですが
オウゴン → バイカリン（「フラボノイド」）です。窒素を含む「インドールアルカロイド」ではありません。また、フラボノイドの確認試験は、リボン状Mg/塩酸 により生じる H₂ でフラボノイド還元し、アントシアニン生成されて呈色です。フラボノイドの確認試験で、いわゆる篠田反応です。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 は妥当な記述です。
Liebermann - Burchard 反応と呼ばれます。

選択肢 3 ですが
ゴシュユの確認試験では、エボジアミンなどの「インドールアルカロイド」を確認します。よって、選択肢 3 は誤りです。

選択肢 4 ですが
バニリン・塩酸 で確認するのはフェノール性水酸基や、フラン環を有する成分です。ビャクジュツ・ソウジュツなどの確認試験です。チンピの確認試験は、ヘスペリジン（フラボノイド）に対して、リボン状マグネシウムおよび塩酸を用います。

選択肢 5 は妥当な記述です。

以上より、正解は 2,5 です。

類題、